

回差点

ピアニストのパウル・バド
ウラースコダが5年前、波田
町で演奏したことを記憶され
ている方もおいでかと思う。
世界中の著名なホールに登場
し、フルトベングラーやカラ
ヤンら伝説的指揮者たちと共
演した82歳の生き証人、音楽

としか思えない。

もう一度聴きたい一心で、
去る10月2日、東京文化会館
で開かれたリサイタルに出掛
けた。小柄な体からほとぼし
る強靱（きょうじん）な意
志、理性的で格調高い演奏、

思う。聞き慣れたシューベル
トの即興曲が新鮮で温かく、
ハイドン最晩年の「皇帝讃歌
（さんか）」変奏曲には涙が
出た。
思えば波田のコンサート
後、急ぎよスコダさんを囲む

ピアニストの巨匠

の都ウィーンの
使者、ピアニス
トの巨匠であ
る。ベーゼンド
ルフアー社の知
人のご縁で、地
方のわずか30
0人収容のホー
ルにお招きでき
たことは、奇跡

愛情あふれる響きは今でも私
の心から消えることがない。
同郷ウィーンゆかりの音楽
家を大切にし、こよなく古里
を愛しているということ、そ
れが国をたがえど、世界の人
の心とつながっているのだと

会をすることになった。ベー
ゼンドルフアーを聴く会の仲
間でしつらえた手作りの打ち
上げ会だ。ビールが好きなス
コダさんは、初めて口にした
焼酎を殊のほか喜ばれ、ほろ
酔い気分ですそこに置かれた

「80歳」のピアノに向かっ
た。ショーチューマーチと言
つてトルコマーチを面白くア
レンジして弾き、皆で沸いた
楽しい思い出がよみがえって
くる。

そのときの写真と頂いたお
手紙を携え、焼酎を土産に演
奏後、控室に伺った。覚えて
いて両手でしっかり私の手を
握ってくださった。将来、波
田が松本市になっても、ここ
に巨匠スコダが来たことと、
彼がたたえたベーゼンドルフ
アーのピアノを波田の誇りに
思う。

（波田町、古畑博子、60歳）